

英語科学習指導案

日 時：平成27年11月6日（金）5校時

学 級：2年B組 男子10名 女子11名 計21名

場 所：2年B組教室

指導者：教諭 杉澤 幸恵

1 単元名 Program 7 If You Wish to See a Change (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2)

2 単元について

(1) 生徒観

小学校での外国語活動の成果もあり、生徒は中学校入学後から現在まで英語での様々な活動に積極的に取り組んでいる。5月に実施したNRTの結果を見ると、「まとまりのある英語を聞きとる（＝全国比115）」ことや「テーマに沿ってスピーチをする（＝全国比105）」ことを得意としている生徒が多い。一方、「長文の大切な部分を読み取る（＝全国比72）」ことや「適切な表現を用いて書く（＝全国比88）」ことを苦手としている生徒が多い。家庭学習や授業での帯学習を通して、初見の英文を読み取る練習を行ったり、テーマを設定した英作文に取り組む等、「読むこと」や「書くこと」の指導の充実を図っている。

本学級は、学習にも前向きに取り組み、家庭学習の習慣が身に付いている生徒が多い。進んで挙手や発言をする生徒は決して多くはないが、大きな声で音読練習を行ったり、ペアやグループでの活動に進んで取り組むことができている。学習活動では、目標時間を設定し、やるべきことを明確に提示することで、生徒が確実に課題解決をし、基礎的・基本的な事項の定着が図られるように指導を工夫している。

(2) 教材観

環境保護活動家である日系カナダ人セヴァン・カリス＝スズキのメッセージを扱う。「私たちは地球に住む1つの家族。共に助け合わなければ共存することはできない」という強い思い。彼女が共感したガンジーの言葉「世の中に変化を期待するならば、まずはあなたが変わらなければならない」から、生徒は環境問題や自分自身の生き方について考えるきっかけとなる内容である。また、このスピーチをした時の彼女の年齢が12歳だったということは、生徒にとっても身近に感じられ、刺激にもなると思われる。また、学習指導要領にある「多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つ」題材でもあると考えられる。

初出となる言語材料は、[動名詞]、[主語+be動詞以外の動詞+形容詞<SVC>]、[主語+動詞+間接目的語+名詞<SVOO>]である。本単元のゴールとして、「セヴァンさんが伝えたいことを要約して英語で書こう。」という活動を設定している。その活動に必要な言語活動を一単位時間できちんと取り組み、既習文も活用しながら表現できるよう指導していきたい。また、この表現活動後のMy Project 5では自分の将来の夢について英語でスピーチ原稿を作り、発表を行う。したがって、My Project 5の活動にも向け、動名詞を使った表現について習熟させ、生徒の表現力の幅を広げていきたい。

(3) 指導観

本単元の言語材料に関わるものとして、生徒は[現在（過去）進行形]、[to+不定詞（名詞的用法）]、[主語+動詞+目的語]をすでに学習している。2学年の生徒にとって、[動名詞]としての-ing形は[進行形]との違いをはっきりと理解して使わせたい表現である。また、[主語+be動詞以外の動詞+形容詞]、[主語+動詞+間接目的語+名詞]はどちらも日常での使用場面の多い表現である。生徒が普段の生活で遭遇する場面でこれらの表現が必要であることを実感させながら、学習形態の工夫を行い、言語材料の習得を図りたい。

3 単元の目標

- (1) [動名詞]、[主語+be動詞以外の動詞+形容詞<SVC>]、[主語+動詞+間接目的語+名詞<SVOO>]を用いた文の構造を理解する。
- (2) まとまりのある文章の内容を読みとり、その内容をまとめ英語で表現する。
- (3) 間違いを恐れずに、学習した表現を使い、相手に分かりやすく話す。

4 単元の評価規準

コミュニケーション への関心・意欲・態度 間違いを恐れず に、学習した表 現を使い、相手 に分かりやすく 話している。	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
	新出表現や既習事項を 用いて、自分や相手の 好きなことについて話 したり書いたりするこ とができる。	セヴァン・スズキに関 する英文の内容を適 切に読み取ることが できる。	①動詞-ing形（動名詞）を用い た文の構造を理解している。 ②[look,become,feel+形容詞]を 用いた文の構造を理解してい る。 ③[give+人+物]を用いた文の構 造を理解している。

5 指導と評価の計画 (全8時間 本時 2/8)

時間	主な学習活動	評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元で学習すべき内容や表現を知る。 ・地球サミットでのスピーチを聞き、セヴァンについての資料を読む。 ・単元全体を読み（聞き）取り、概要を把握する。 ・本文の内容を聞き、日本語での簡単な質問に答える。 	理解	・プリント
2 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・動名詞を用いた「～すること」の表現の仕方を知る。 ・動名詞を用いて、自分が好きなことや得意なことを表現する。 	関心意欲態度 表現	・活動観察 ・プリント
3	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文の内容を理解する。 ・教科書本文を正しく内容が伝わるように読む。 	理解 言語①	・後日テスト
4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・[look,become,feel+形容詞]の形で表す表現を知る。 ・[look,become,feel+形容詞]の表現を用いて、相手の持ち物や写真を見て感想を伝える。 ・教科書本文の内容を理解する。 ・教科書本文を正しく内容が伝わるように読む。 	関心意欲態度 表現 理解 言語②	・活動観察 ・プリント ・後日テスト
6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・[人に物を与える]という表現の仕方を知る。 ・[give+人+物]の表現を使えるように練習をする。 ・教科書本文の内容を理解する。 ・教科書本文を正しく内容が伝わるように読む。 	関心意欲態度 表現 理解 言語③	・活動観察 ・プリント ・後日テスト
8	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文の内容について、英語での対話で確認する。 ・セヴァンが伝えようとしていることをまとめ、既習表現を用いて書く。 (「セヴァンさんが伝えたいことを要約して英語で書こう」) 	理解 表現	・プリント

6 本時の指導について

(1) 本時の目標

- ・動名詞を用いて、自分が好きなことや得意なことを相手に正しく伝える。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的評価規準	
		B (概ね評価できる)	C (努力を要する生徒への支援)
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワークにおいて間違いを恐れずに積極的にコミュニケーションを図ることができる	英語を使ってペアでの言語活動に取り組むことができる。	机間指導をし、活動が停滞している生徒には、臆せず活動に取り組めるよう支援する。
外国語表現の能力	動名詞を用いて、自分や相手の好きなことや得意なことについて話したり書いたりすることができる。	目標となる英文を3文以上書き、それを用いながら対話することができる。	動名詞のポイントについて再確認し、教科書等から使える英文を引用させる。

(3) 本時の構想

・「～すること」という表現については、**Program 6** の不定詞【名詞的用法】で既に学習をしている。本単元では、動名詞を用いて表現する方法を学習する。生徒たちが戸惑わないために、本時では、不定詞については取り上げず、動詞 (like, enjoy等) + 動詞ingの形に焦点化させる。ing形については、進行形で既に学習しているが、復習として**Pattern Practice**の練習時に「eの脱落」や「語尾の子音字の重複」についても確認する。自己表現活動においては、英文作成の目標を5文とし、何を・どうやったら目標達成に迫れるのかを明確にする。また、新出表現を用いてのペアでの表現活動を通して、英語を使って会話をする楽しさを実感させたい。座席の工夫を十分に生かし、男女の別なく、十分にコミュニケーションさせるよう努める。

- ・研究紀要「指導方法におけるユニバーサルデザインの取り組み」に関わって

(1) 「時間の構造化」

すべての活動は取り組み方（話し合いをする、自分だけでやる、辞書を使用する等）と目標時間を生徒に伝えてから活動に取り組ませている。活動時間については目標時間を板書し、タイマーで計時して、最後まで集中して取り組めるよう心がけている。

(2) 情報伝達の工夫

既習事項の定着が十分ではない生徒や新しい学習内容に不安を感じる生徒等も、黒板を見れば振り返りができるように、端的にポイントを明示した板書を行う。また、言語が使用される具体的な場面設定のために絵や写真を掲示し、英語表現の助けとなるようにする。

(3) 参加の促進

本校の英語科は、すべて専科によるTTを行っている。その利点を十分に生かし、個々の習熟に応じた手立てを講じられるようにしている。

(4) 学習内容の構造化

「学習確認シート」を用いて、単元や一単位時間の学習内容やゴールについて理解し、学習後に生徒自身が振り返れるようにしている。見通しをもち学習できることで、学習意欲が高まり、積極的に授業に参加する生徒が増えてきている。

7 本時の展開

段階	学 習 活 動	指導の留意点 ユニバーサルデザインの工夫 (☆焦点化 ○視覚化 △共有化 ◆その他) 授業内の個別指導(・)	評価の 観点・方法
導入 1 0 分	1. 帯学習 ・英文作成 2. 前時の復習 3. 本時の学習課題の提示	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを掲示し、英作文に取り組みさせる。 (・机間指導を行い、必要に応じてヒントを与える) ・数名に発表させる。 ・前時の内容確認を英語で行う。 ○写真等を参考にし、内容を思い出させる。 なるべく英語で答えられるように支援する。 	
展開 3 5 分	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 自分や友だちの好きなことを英語で伝えよう。 </div> 4. 新出表現の確認 5. 基本表現のパターン練習 6. 自分の好きなことについて英語で表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の会話を聞き、本時の課題を確認する。 ☆ing形に気付かせる。 △気付いたことを発表させ、“動名詞”の形や意味について全体で確認する。 ・「Basic Dialog」を音読練習する。 ☆動名詞にあたる部分を見つけ、内容を確認してから音読練習させる。 ・リスニング練習を行う。(「聞いてみよう」) ・写真や紙板書を見ながらテンポよく口頭練習する。 ・①5文を目標に書く。 ②文の形で言えるように練習させる。 ○◆板書を再度見て、“動詞+動名詞”の形を個人で振り返れるようにする。 	7【関心意欲態度】 ペアワークにおいて、間違いを恐れずに積極的にコミュニケーションを図っている。 <観察>
	7. ペアでお互いの好きなことを英語で伝え合う。 8. 友達から得た情報を英語で書き、英文で発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わる工夫をする。(視線・動作等) ・メモを取りながら聞くよう指示する。 ☆書く際は、主語が「自分」ではなく、「友達」(三人称)になったことに気付かせる。 △作成した英文を複数のペアに発表させる。 	7. 8【表現】 動名詞を用いて、自分や相手の好きなことや得意なことについて話したり書いたりすることができる。 <ワークシート>
終末 5 分	9. 学習の振り返り 10. 次時の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・学習確認シートに記入し、本時の内容を振り返る。 ・次時の内容確認と家庭学習の内容を知る 	

8. 板書計画

